

展示中の茶道具の種類

てんもくちやわん
天目茶碗

茶を飲むための碗です。元来は中国の天目山一帯の寺院で用いられ、国内では13世紀から瀬戸で生産が始まりました。

かたつきちやいれ
肩衝茶入

茶を入れる容器です。今回の展示では肩衝と呼ばれる、体部の上方部（肩）が横に張り出した形状の茶入を展示しています。

びんがけ
瓶掛

主に茶室で使われる小型の火鉢で、鉄瓶を掛けて湯茶を沸かすための道具です（下写真参照）。

ふろ
風炉

炭と灰を入れて火をおこし、茶釜を掛けて湯を沸かすための炉です。

けんすい
建水

茶室内で茶碗を清めたり温めたりしたときに使った湯や水を捨てるための茶道具です。



瓶掛の使用方法